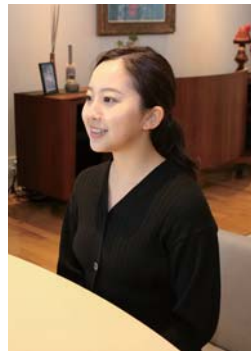


人の心に届く 音楽家になりたい。

期待の若きチェリスト・佐藤桂菜^{けいな}さん。広報おおぶ平成28年3月1日号では、ニューヨーク・コンサートで演奏したことや将来の夢などについて語っていただきました。今回、留学先の米国から一時帰国した佐藤さんに米国での生活や音楽を始めたきっかけについて聞きました。



昨

年9月から米国最高峰といわれる音楽大学「ジュリアード音楽院」で学んでいる佐藤桂菜さん。世界的な音楽家を多数輩出してきたレベルの高い環境の中で日々音楽と向き合っています。「充実しているけど忙しくて、3カ月があっという間に過ぎちゃいました。ダンスや俳優を目指す人と共演することもあり、とても刺激的です」と学校生活を振り返ります。

ジュリアード音楽院は、市出身の世界的バイオリニスト・竹澤恭子さんもかつて在籍した学校で、世界中から優秀な学生が集まります。佐藤さんは進路を決める際、共演したこともある竹澤さんにも相談し、同学院を受験。難関といわれる試験を見事に合格しました。

順風満帆に見える佐藤さんですが、

入学後は周りのレベルの高さに焦りを感じます。「周りは才能を持った人ばかり。なんで私はここに受かったのだろう。みんなに全然追い付いていけないなあ、と自己嫌悪に陥っていました」と語ります。そんな時、指導を仰ぐ先生から「自分と他人を比べてはダメ。桂菜にもいいところがあるよ。そこを磨いてみたら」とアドバイスをもらい、「今では自分の長所を磨いていこうと思えるようになりました」と二つ壁を乗り越えます。

佐藤さんとチェロとの出会いは0歳の時。母親のあけみさんは「0歳でチェロの音色に興味を持ち、スズキ・メソッドの教室に通わせました。最初は鉛筆を口に立って、『きらきら星』の音楽に合わせてリズムを取る練習をしていました。実際にチェロを使って練習を始めたのは3歳から

です」と当時の様子を話します。スズキ・メソッドの教育法は、与えられた曲をマスターしたら次の曲に挑戦できるシステムで、佐藤さんは「自分よりも新しい曲をやっている子に負けたくない。早く次の曲が欲しい」と思っていたそうで、負けず嫌いな一面も垣間見えます。

中学1年の時には、初めてのオーディションを経験し「NHK名古屋青少年交響楽団」に入団。中学3年の時にはNHKナゴヤニューイヤークンサートに出演する機会に恵まれ、ピアノリストの清塚信也さんやバイオリニストの古澤巖さんなど、一流の音楽家と共演します。このコンサートは佐藤さんにとって音楽人生のターニングポイントとなり、「本格的にチェロで音楽の道に進みたい」と家族に打ち明け、音楽留学を



▲平成28年3月1日号中面



>>PROFILE 大府市出身。石ヶ瀬小、星城中に進学後、2019年6月まで米国ポストン郊外の芸術高校で音楽を学ぶ。同年9月からニューヨークにある米国最高峰といわれる音楽大学「ジュリアード音楽院」に通う。チェリストとして市出身の世界的なバイオリニストの竹澤恭子さんをはじめ数々の音楽家と共演。

佐藤 桂菜

期待の若きチェリスト

① 第25回日本クラシックコンクール全国大会第1位受賞者演奏会 ② 愛三文化会館で行われた2007クリスマスコンサート(7歳の頃)



「将来は竹澤さんのような素晴らしく影響力があり、人の心に届く音楽家になりたい」。常に竹澤さんの背中を追いつけている佐藤さんの夢の旅はまだ途中です。

「7月19日、愛三文化会館で開催される市制50周年を記念したコンサートで、佐藤さんは竹澤さんと再び同じ舞台に立つ予定です。意気込みを聞くと「竹澤さんに自分の成長を感じてもらいたい。後輩として恥ずかしくない演奏をしたいです」と熱く語ります。

「0歳からチェロを愛し、チェロと共に歩んできた佐藤さんは、チェロの魅力や「深い音が好き。チェロはいろんな音を表現でき、いろんな楽器に合い、いろんな音楽に欠かせません。縁の下の力持ちなんです」と笑顔で語ります。